



高松空港初、空港内作業車両で バイオディーゼル燃料「B100燃料」の導入を開始

JALは、CO2排出量削減への取り組みの一環として、2024年6月1日より、高松空港配備の空港内作業車両であるトーイングトラクター(*)にバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」の使用を開始します。

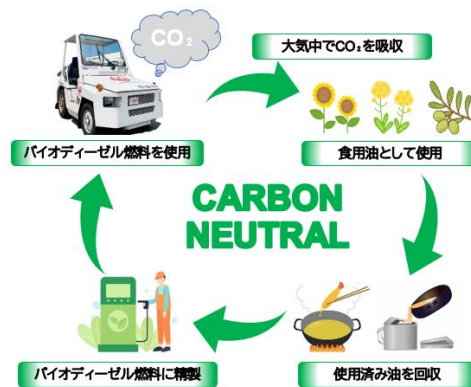
(*)空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

「バイオディーゼル燃料」は植物由来の廃食用油から精製されており、原料となる植物が成長過程でCO2を吸収するため、ライフサイクル全体でのCO2排出量を実質ゼロにすることができます。家庭や地域の飲食店などから排出される植物油などを精製し、地域内で使用することで、地産地消の循環型エネルギーを実現します。このバイオディーゼル燃料は、軽油と比べて1リットル当たり2.62kgのCO2排出量削減の効果が見込めます。

実施にあたり、株式会社ダイキアクシス・サステナブル・パワー(愛媛県松山市)が「B100燃料」の製造および供給を行い、シェル徳発株式会社(香川県高松市)が給油を担当します。



トーイングトラクター



循環イメージ



バイオディーゼル燃料
「B100燃料」

これにより、JALが就航する四国の全空港(松山、高知、徳島、高松)でトーイングトラクターにバイオディーゼル燃料が導入されました。

JALは、この循環型エネルギーの利用を通じて、地域や社会と連携し協働することで、「CO2排出実質ゼロ」実現のために、持続可能なエネルギー利用によるCO2排出削減に引き続き取り組んでまいります。

【運用開始日】 2024年6月1日(土)～

【対象空港】 高松空港(香川県高松市)

【対象車両】 高松空港配備 JALトーイングトラクター 2台

【実験内容】 バイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料」をトーイングトラクターに使用

以上

